

◎礼拝説教：2020年4月12日

◎説教者：中村準一 牧師

◎タイトル：キリストはよみがえられた

◎今日の聖書：ヨハネ福音書20：1-18

1さて、一週の初めの日に、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリヤが墓に行くと、墓から石がとりのけてあるのを見た。 2そこで走って、シモン・ペテロとイエスが愛しておられた、もうひとりの弟子のところへ行って、彼らに言った、「だれかが、主を墓から取り去りました。どこへ置いたのか、わかりません」。 3そこでペテロともうひとりの弟子は出かけて、墓へむかって行った。 4ふたりは一緒に走り出したが、そのもうひとりの弟子の方が、ペテロよりも早く走って先に墓に着き、 5そして身をかがめてみると、亜麻布がそこに置いてあるのを見たが、中へははいらなかった。 6シモン・ペテロも続いてきて、墓の中にはいった。彼は亜麻布がそこに置いてあるのを見たが、 7イエスの頭に巻いてあった布は亜麻布のそばにはなくて、はなれた別の場所にくるめてあった。 8すると、先に墓に着いたもうひとりの弟子もはいつてきて、これを見て信じた。 9しかし、彼らは死人のうちからイエスがよみがえるべきことをしるした聖句を、まだ悟っていなかった。 10それから、ふたりの弟子たちは自分の家に帰って行った。 11しかし、マリヤは墓の外に立って泣いていた。そして泣きながら、身をかがめて墓の中をのぞくと、 12白い衣を着たふたりの御使が、イエスの死体のおかれていた場所に、ひとは頭の方に、ひとは足の方に、すわっているのを見た。 13すると、彼らはマリヤに、「女よ、なぜ泣いているのか」と言った。マリヤは彼らに言った、「だれかが、わたしの主を取り去りました。そして、どこに置いたのか、わからないのです」。 14そう言って、うしろをふり向くと、そこにイエスが立っておられるのを見た。しかし、それがイエスであることに気がつかなかった。 15イエスは女に言われた、「女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか」。マリヤは、その人が園の番人だと思って言った、「もしあなたが、あのかたを移したのであれば、どこへ置いたのか、どうぞ、おっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります」。 16イエスは彼女に「マリヤよ」と言われた。マリヤはふり返って、イエスにむかってヘブル語で「ラボニ」と言った。それは、先生という意味である。 17イエスは彼女に言われた、「わたしにさわってはいけない。わたしは、まだ父のみもとに上っていないのだから。ただ、わたしの兄弟たちの所に行って、『わたしは、わたしの父またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く』と、彼らに伝えなさい」。 18マグダラのマリヤは弟子たちのところに行って、自分が主に会ったこと、またイエスがこれこれのことを自分に仰せになったことを、報告した。

◎宣教

キリストは何の罪も犯さなかったのに、十字架に掛けられて殺され、墓の中に葬られました。キリスト教の信仰は、キリストの十字架の死の物語から始まるのです。キリストの

死の物語こそが、キリスト教の救いの根幹なのです。では、キリストを十字架の死に渡した者は、誰なのでしょう。ユダヤ人でしょうか。ユダヤ人は、キリストを逮捕して牢獄に入れましたが、殺したのは、ユダヤ人ではありません。では、ローマの兵士たちでしょうか。彼らは、キリストを鞭打ち、刑場に連れて行き、十字架に掛けましたが、その後、昼の12時から午後3時まで、刑場のあたり一帯は暗やみに包まれて、主イエスの姿は見えませんでした。その暗闇が消えたとき、主イエスは殺されていたのです。暗やみの中で、主イエスを殺したのは、ローマ兵ではありません。主イエスを殺したのは、天の御父だったのです。天の御父は、なぜ、主イエス様を殺したのでしょうか。天の父は、主イエス様を罪人として罰したのです。しかし、イエス様は何の罪も犯していませんでした。イエス様は、わたしたちのすべ手の罪を背負って、十字架につけられ、み父の裁きをうけて下さったのです。それゆえに、イエス様を信じる者は、イエス様の贖いの死によって、すべての罪を赦されて、永遠の命を与えられるのです。イエス様を信じた者は、イエス様の贖いの死によって、すべての罪を赦されて、永遠の命を与えられるのです。